



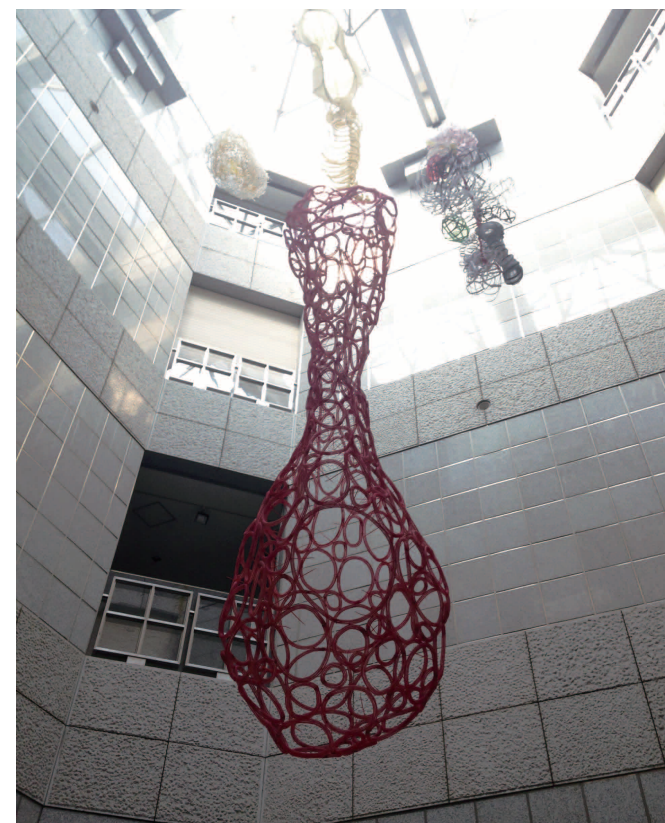
コスチューム制作ワークショップ 衣と体のせめぎあい

だれも見たことのないものを見せたいというSMFオリジナル企画の長期ワークショップ。「食」をテーマに、コスチュームデザインを公募。制作者が、コスチュームデザイナーのひびのこづえさんのアドバイスを受けながらパフォーマーとの話し合い、フィッティングを重ね、そこから新たなパフォーマンスが生まれることがねらいです。

7月14日(火)～24日(金) 埼玉県立近代美術館 講堂および地階センター・ホール
参考作品展示「ひびのこづえ リズムプリズム Rhythm & Prism」開催

人を包む服を作りつづける中で、ダンサーとのコラボレーションは特に魅力的です。変幻自在に変化するダンサーの体と布との関係の中で、服は人の体の動きを増幅させ、ときには抵抗をあたえることで新しい動きの発見に出会えます。でも、その実現にはコミュニケーションと愛情が大切で、それ無しでは成立しません。それがあれば、どんな奇抜な服もダンサーの体が入ることで魂が宿り、美しく動くのだと信じて作っています。

ひびのこづえ



7月18日(土) 北浦和公園音楽噴水
展示作品着用によるダンスパフォーマンス「水辺のふたり」

—ダンスパフォーマンスを手がける私たちにとって、ふだん身近に身に着け、あるいは接している舞台衣装＝コスチュームが破格な発想をもち、既存のダンスを撥ね退けると、強い衝撃とともに深い感動が押し寄せる—

これは、ひびのさんが二人の踊り手の前に赤いチューブのコスチュームを置き、コンセプトを提示したときに受けた驚きと感動です。さらに試着が進み、体を包むような白いコスチュームをダンサーが身にまとうと、二人の身体と意思を温かく大切に包む要素が加わっていくように感じられました。

このときの体験は、その後に展開する16組のコスチューム制作者とパフォーマーが織りなす「衣と体のせめぎあい」を彷彿とさせるものでした。

藤井香 (SMF運営委員)



出演：蒼浩人、藤井彩加／バイオリン演奏：新村隆慶

ごあいさつ

「あなたと どこでも アート」実行委員会では、今年度は「着がわりプロジェクト」と題して、川越、川口、浦和、北浦和、入間など、連携する5つの公立ミュージアムの所在地を中心に、およそ30の多彩なプログラムを実施しました。

毎日普通におこなっている「着る」という行為も、改めて意識してみると、清水の舞台ならぬ勝負を賭けた冒険であったり、意図した没個性であったり、あるいは落ち込んだ気分を引き立たせる工夫だったり、とてもスリリングでアーティスティックなものに思えてきます。「着がわり」とは、季節や時期、機会や気分など、さまざまな“き”にあわせて自在に“き”がえ、心豊かに生きる提案でもあります。

今年度もプログラムの半数がミュージアムを会場とする講座やワークショップでした。各館のスタッフが担当するこれらの企画は人気も高く、多くが抽選となり好評でした。ミュージアムがこうした催しを通じて市民との交流をさらに深め、地域の核としていっそう活用されることが期待されます。

一方、「あなたと どこでも アート」の名に違わず、ミュージアムを飛び出して、公園や商店街、廃工場、まちなかのアートスポットなど、さまざまな場所でアートの新たな楽しみ方を提案する試みも継続しています。こちらは主にSMF (Saitama Muse Forum) が企画・運営のエンジンとなっています。

ひびのこづえさんの監修によるコスチューム制作ワークショップ「衣と体のせめぎあい」は、その中心となるプログラムでした。パフォーマーと衣裳制作者のマッチングを図り、両者の対話を促しながら新たな創造の地平を探ろうというのが、きわめてユニークな点でした。ひびのさんのアドバイスを受け、幾多の試練を乗り越えてできあがった衣裳をまとうたお披露目パフォーマンスが、県内各地の異なる特性を持った空間で開催され、11月21日には総集編として北浦和公園でファイナル・イベントがおこなわれ、公園を訪れた人たちを魅了しました。

KAWAGUCHI ART FACTORYの最後を飾った「“き”がわりを“き”がえる」も、柱となる重要なプログラムでした。茶室「待庵」を模した軸組を工場内に設え、建築・美術・演劇・音楽・ダンスなどによる多様なアプローチを試みて、空間そのものを変容させる3日間のセッションとハブラーケン(1928-)の「オープン・ビルディング」の概念を軸に、さまざまな観点からその思想的な背景を考える井戸端かいぎで構成されました。

「時間のきもの」プロジェクトも計画からほぼ1年をかけた取り組みです。春・夏・秋それぞれに野外で公開制作・ワークショップをおこない、季節感や時のうつろいを日光写真の原理で反物に定着させ、「時間のきもの」を仕立て、創作ダンス「時間がおどる」を展開しました。

昨年3月にネット上にオープンした「アート長屋」では入居者も徐々に増え、井戸端や掲示板が作られたほか、ネット上の物置をパビリオンとし、サイバーとリアルを往還して「宝船展」が開催されるなど、プラットフォーム機能を充実させる試みが続いています。昨年度のコンペで受賞し制作された「旅する小さな家」は、夏と秋の2度の新たな旅を重ね、1000人を超える方々にご体験いただきました。

以上が今年度の概要です。詳細はこの記録集に盛り込まれていますが、これだけの事業を企画・実現できたのは、さまざまな分野で意欲的な活動を展開するSMFのみなさんの尽力によるものです。平成20年から続いてきた各ミュージアムとSMFとの協働をふまえ、美術館と地域連携の新たなモデルの構築が求められています。

この事業の趣旨を理解し、貴重な機会を提供してくださった文化庁をはじめ、惜しみないご協力をいただきました各ミュージアム、大学、団体各位、多くのみなさま方に、心から感謝申し上げます。

平成28年3月

「あなたと どこでも アート」実行委員会 委員長 建島 哲

目次	
ごあいさつ	1
コスチューム制作ワークショップ 衣と体のせめぎあい	2-5
トリップクロス・ワークショップ 巨大織り機でみんなの「まち」を織ろう！	6
アシの裏 クツの裏 一足と靴からまちについて考える	7
「学校になぜ美術があるのでしょうか」+	
実践ワークショップ「チャブクロコレクション2015夏」	7
創造ラボ アリットで何が起るのか？！	8
多世代交流ワークショップ「トントンくるくるオシャレにへんしん」	9
ワークショップ「和紙で着物の雛形を作ろう」	9
美術館が寄席になる！—たまには美術館で思いっきり笑ってみたい—	
三遊亭鬼丸師匠による落語とトーク	10
蒼 浩人 踊り公演「天衣無縫」	10
通崎睦美 講演会&木琴演奏会—1935をめぐって—	10
押忍！手芸部 in MOMAS ロボぐるみを作ろう！	11
きたうらワンがまちをジャック！—7つの間違いを探せ！！—	11
ハロウィンフェスタ	12
SeeSew「時間のきものプロジェクト」	13
“き”がわりを“き”がえる	15
SMFアート寺小屋 アートプラットフォーム形成のためのメタデザインⅢ	17
アート日和 旅する小さな家がやってきた	19
MOMASコレクションⅣ アーティスト・プロジェクト：島州— 世界の変換と再構築—	20
「SMFアート長屋」2015年度の展開と「宝船展」	21
委員名簿、連携協力機関・団体、協力者名簿、主な報道記事等	22